令和6年 第3回

播磨高原東小学校及び播磨高原東中学校の在り方検討会 会議録

招 集 場 所	播磨高原広域事務組合 2階会議室
開 会	令和7年2月21日(金) 18時00分
議 事 日 程	<ol style="list-style-type: none">1 開 会2 会長あいさつ3 教育長あいさつ4 協議報告事項 (1) 組合立学校の在り方に関するアンケートの結果報告について【資料1】 (2) 今後の学校の在り方について5 その他 今後の予定 令和7年5月～6月頃 午後6時から6 閉 会

(18時00分開会)

事務局 皆さま、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。
定刻になりましたので、ただいまから、「第3回播磨高原東小学校及び播磨高原東
中学校の在り方検討会」を開催いたします。まず初めに、播磨高原東小学校及び
播磨高原東中学校の在り方検討会会長からご挨拶をお願いいたします。

会長 皆さん、こんばんは。よろしく申し上げます。
本日は、第3回組合立学校の在り方検討会にお忙しいなか、お集まりいただきあり
がありがとうございます。今回は、先般、調査を実施したアンケート結果を中心に議論を
進めていきたいと思っております。皆様におかれましては、前回に引き続き、たくさんの
前向きなご意見をいただき、有意義な会議となりますよう、よろしく申し上げます。

事務局 ありがとうございました。続きまして、播磨高原広域事務組合横山教育長がご挨拶

擧申し上げます。

教育長 こんばんは。先ほど会長のお話にもありましたが、第1回、第2回と議論をしていただきましたが、今回は、組合立学校の在り方に関するアンケート結果がまとまりましたので、ご報告いたします。そのアンケート結果をもとに、議論を深めていただくようよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。
それでは、4協議報告事項に入らせていただきます。ここからの議事につきましては、会長、よろしくお願いいたします。

会長 皆さまのご協力をいただき、進行していきますので、ご協力お願いいたします。
それでは、議事を続けます。(1)組合立学校の在り方に関するアンケートの結果報告についてを議題といたします。事務局より説明願います。

事務局 別紙1、播磨高原東小学校及び播磨高原東中学校の在り方に関するアンケート調査の結果について報告します。

1、アンケートの配布については、11月10日の市町広報紙配布時期に合わせて実施し、締め切りを12月20日として調査をしました。

2、調査対象者は、播磨高原東小学校及び播磨高原東中学校の校区の世帯と、区域外就学により登校している世帯として、配布数は、361件です。

3、回答数は112件で、回収率は31.0%です。

質問1としまして、「あなたのお住まいの場所をお答えください」という設問で答えいただいた件数は、たつの市新宮町西栗栖地区で二柏野、角亀、上筋原、下筋原で34件、たつの市新宮町光都では64件、上郡町光都は11件、区域外の方が2件、無回答の方は1件でした。

無回答の方は、該当する子どもがいないということを枠外に記載されており、一切、設問にご記入がありませんでした。そのため、無回答とさせていただきました。割合については、お手元資料の円グラフのとおりです。

質問2において、「あなたの世帯についてお答えください」については、複数回答可としました。就学前の子どもがいる家庭が7件、小学生児童がいる家庭が24件、中学生生徒がいる家庭から13件、子どもがいない家庭が78件となっております。そのうち、子どもがいる家庭での重複は、11件となっております。

質問3「播磨高原東小学校、播磨高原東中学校の今後の在り方について、どのようにお考えかお答えください」について、①そのまま存続が43件、②播磨高原の小中一貫校を設置し存続が44件、③たつの市、上郡町のそれぞれ住所地の学校へが5件、④新宮小中一貫校へ通学が14件、⑤どれともいえないが5件の回答がありました。

なお、①そのまま存続と、②高原小中一貫校の、播磨高原での学校存続を望まれる回答を合算すると、87件で、割合は、全体の78.4%となっております。質問3のうち、質問2で①未就学、②小学生、③中学生の子どもがいる家庭を抜粋すると、全体で33件あり、【①そのまま存続】、【②高原小中一貫校】を合わせた合計

が26件、回答割合は、78.8%と、お子さんがいない家庭の回答と合わせた全体での割合と、近い結果になりました。

また、④中学生以下の子どもがいない家庭からの回答についても、78件の回答があり、【①そのまま存続】、【②高原小中一貫校】を合わせた、回答数の合計は61件で、割合としても78.2%となり、こちらも中学生以下の子どもがいる家庭の回答と合わせた、全体での割合と近い結果になっています。

質問4以降は、質問3で、なぜ、そのように回答したのかを問う内容です。質問4の回答として最も多かったのは、【③学校が無くなるとまちの活気が失われる】という答えが最も多く回答されていました。

さらに、④その他、自由記載では、1つ目の【今後のSPRING-8-IIへの改築に伴う発展、第2工区第3工区の発展の可能性に期待しています。定住者を光都に増やすには小・中学校は必須。今の小・中学校の位置関係から考えると敷地を1つに統合すれば、小中一貫校にも移行可能と思われます。】、2つ目の【そのまま存続が難しいのなら、播磨高原小中一貫校の設置。学校を無くすと、まちとして成り立たない。都市の発展には学校が必須。】など、この播磨科学公園都市の今後のことも考えたご意見が、多く記載されています。また、それぞれの存続が難しいなら1つにすれば良いといったご意見もありました。

3ページの下から3つ目の、【現在の小中一貫（連携）教育がうまく機能しており、子ども達にとっても良い教育環境、自然環境状況であるからです。我が家の子ども達も今の小学校、中学校が大好きです。ふるさとに学校を残し、そして街を残してあげたいと思います。】という、現在の学校現場で行われている、教育活動についてもご意見がありました。

続いて、質問5で最も多かった回答は、【①幅広い学齢の児童・生徒が日常的に異学年との交流を図ることができる。】でした。【④その他】においては、【徒歩圏内、近距離で行ける】という回答が散見されました。なかには、【小規模特認校制度の導入に期待します】という回答や、こちらの質問でも現在の学校現場が実施している取組等を、記載した回答もありました。

次に、質問6「たつの市、上郡町のそれぞれの住所地の学校へ通学」について、【幼児教育施設で知り合った友人と同じ学校に入学できる】が5件、この質問を選ばれた全ての方が回答しています。また、③その他では、【少人数での学習や生活を不安視】している回答が多くありました。

質問7「たつの市新宮地域小中一貫校へ通学」を選ばれた方は14件で、【①毎年クラス替えができる】11件、【②クラブ活動や部活動の選択肢が増える】12件でした。その他の意見として、先ほどの質問6と同様、少人数での学習や生活に関する回答が多くみられました。

質問8「どれともいえない・その他」は、5件の回答がありました。回答者自身の実体験や、【校区内に人口が増えるのなら、そのまま存続、高原小中一貫校で児童生徒数が増えないならそれぞれの市町の学校へ通学する】といった回答がありました。

質問9「その他、ご意見」については、2つ目の回答、【小中一貫校でもいいが、徒歩通学ができるところがよい。現在も徒歩通学が楽しいと言っている。1年生から6年生まで一緒に登校することにより、勉強になることもある。】この回答は、

新宮地域小中一貫校を指していると考えられます。

6 ページの中ほど、下から4つ目の回答、【前回のPTAのアンケートでは、小・中それぞれそのまま存続を選びましたが、急激に子どもの数が減る中で、小中一貫校として存続を目指す方が現実的だと思いはじめています。】更に下から2つ目、【現在の小学校と中学校が存続できれば理想的ですが、近隣の状況から考えて、それは不可能に近いと思い、小中一貫校の設置を選びました。地域にとって、学校存続は大問題です。】、7 ページについても、【学校は地域の重要なインフラ施設である】との意見が多かったです。

8 ページの2つ目【新宮地域小中一貫校へ行くようにしたら。】や、4段目の、【通学バスなど、来てくれたら嬉しい。保育園のお友だちは皆新宮へ行く子が多いので、一緒になれば嬉しい。人数が少しでも多い方が、将来、高校などに行ったときにいきなり大人数になるよりいいと思う。自分の子どもに、充実した学校生活を送ってほしいと心から思います。播磨高原東小学校、中学校も、人数が少なくても一人一人に指導や勉強が行き届いて、いいなあとは思っています。】5段目、【企業庁が、まちの将来像を地元市町や有識者を交えて新たに議論する協議会を設置するとされており、その議論の動向を在り方検討会でも情報共有いただきたい。小・中学校の在り方は、光都のまちづくりの方向と表裏一体と考えます。】という意見がありました。

続きまして、10 ページをご覧ください。参考質問として、卒業生に対して、播磨高原東小学校・播磨高原東中学校についてどう感じられているかを回答していただき、26 件の回答がありました。

少人数で良かったことは、【コミュニケーションを取りやすい】、【まとまりがあった、先生のサポートを受けやすい】などの回答が多く、少人数で困ったことは、【気の合わない人とずっと一緒にしんどい】、【進学の際に大人数での集団生活に慣れなかった】、【行事で盛り上がり欠ける】等の回答がありました。

なお、「あなたが考える1クラスの人数」については、「21～30人」と回答した方が最も多く12件、「11人～20人」と回答した方が10件でした。

アンケート結果については、以上です。

会長 事務局の説明が終わりました。何かご意見がございましたら、挙手にてお願いいたします。

委員 差し支えなければ、質問1の母数をそれぞれ教えてください。

事務局 母数となる配布部数は、361件です。地区別の内訳としては、新宮町西栗栖地区が140件、新宮町光都地区が164件、上郡町光都地区は53件、区域外が4件です。

会長 その他ご意見等ございましたら、挙手にてお願いいたします。

委員 このアンケート結果をまとめて、事務局の方で、道筋が立てれたのか、進めていく方向性などが見えたのか教えていただきたいです。そのような提案がないと、こ

のアンケート結果を説明していただいても意見を言えないと思います。

事務局 アンケートの特記事項などについては、今、確認していただくところもあるかと思いますが、実際に、質問1から質問3の回答の割合などを見て、率直なご意見などをお聞かせいただきたいと思います。

委員 この結果を見ると、全体で【そのまま存続】あるいは、【高原小中一貫校の設置】と回答した方が8割近いので、どのような形で組合立学校を存続させるかは、この会で検討するとして、存続させる方向性でこれからの議論をしていけば良いかと思えます。皆さんは、いかがでしょうか。

委員 私も8割近い方が存続を希望されているので、存続する方向で話し合いをしていけば良いと思えます。ですが、反対意見やデメリットを見ていたら不安要素を記載されている方がいるので、その不安要素を解消できるような案が出れば良いのかなと思えます。

委員 委員にお伺いしたいのですが、昨年、PTAや保護者会の方が実施されたアンケート調査の結果と、今回、事務局が実施したアンケート結果に差分や傾向の違いなど変化点があれば教えていただきたいと思います。

委員 組合立学校を存続させるという結果と割合については、今回と違いはありません。前は、8割を少し超えていたと思えます。ただ、PTAと保護者会が実施したアンケート結果については、かなりの方が【そのまま存続】という回答をされていた割合が高かったように思えます。それに比べると今回、事務局が実施したアンケート結果は、【高原小中一貫校の設置】という回答が増えているように感じます。
やはり、保護者の方々は【そのまま存続】という回答をされている方が多かったように思えます。お子さんがいない方の回答は、地域のことを考えた意見などがありました。一貫校でも良いから残してほしいという意見は無かったので、そこが違いかなと思えます。

委員 組合立学校を存続させるという回答や結果は、昨年のアンケートと変わらないということですね。

委員 先ほど言われたメリット、デメリットのうちのデメリットの部分に配慮しなくてはいけないかなと思えます。
委員は、組合立学校の卒業生であり、母校かと思えますが、母校への思いや実際に経験されたことなどをお聞かせいただければと思えます。

委員 地域のことを何も考えずに、私が経験したことだけの意見を言えば、どちらかと言えば、存続は反対です。
私は、新宮地域にできる小中一貫校へ、できるだけ大人数の学校へ子どもが通いたいと言えば、通わせてあげたいという思いでいます。それは、実際、私自身が小

学4年生までは、たつの市立西栗栖小学校で1クラス30名という規模で過ごしてきました。そして、小学5年生に進級する際に、現在の組合立学校が出来ました。組合立学校へ転校した途端に、1クラス30名だったのが、1クラス4名といきなり人数が減りました。同じクラスにいる男児は4名だけでした。

小学5年生、小学6年生と4名で過ごし、中学校へ進学した際に、また、西栗栖地域から何名かの生徒が組合立学校へ進学してきましたが、それでも、1クラス9名という少人数規模で中学3年間を過ごしました。

中学校を卒業後、高校へ進学したらまた、1クラス40名の規模になりました。7クラスという大人数の中へ入った際に、やはり圧倒されました。高校生になっても。急に、大勢生徒がいる集団の中へ入ったら、なかなか馴染みにくい部分もありますし、やはり、周囲の同級生を見ていると、昔からの友人が同じ学校にいる生徒が多かったです。

そのため、自分自身もしんどい思いもしたこともあるので、このようなことを考えたら、なるべく同級生が大勢いる環境で過ごす方が、子どものためかなと思う気持ちもあります。

しかし、私自身、生まれも育ちもたつの市新宮町なので、播磨高原東小学校を卒業して、たつの市立新宮中学校へ進学していたら、小学校時代の友人達とも再会できていたのかなと思います。でも、中学校も播磨高原東中学校へ進学することにより、たつの市新宮町での同級生や、顔見知りも少なくなりました。たつの市新宮町にある塾に通っていたので、その時に知り合った友人や、部活動を通して知り合った友人もいましたが、それでも実際、たつの市立新宮中学校に通う同級生は、半数以上、顔見知りはいませんでした。

たつの市立新宮中学校に進学していたらもっと交流も増えたり、知り合いも多くできていたのではないかと、たくさんの友人と知り合えていたら、自分の考え方や生き方なども、その際に色々と刺激を受けて変わっていた部分もあったのではないかと思います。

ですが、一概にはどちらが良いとは言いきれませんが、私自身が経験した中では、やはりしんどかったことの方が多くのように思います。確かに全員が仲良く、先生がよく見てくれるなど、良いところもあります。ですが、私はしんどいことの方が多かったと思います。

委員 しんどいというのは、高校入学後がしんどかったのですか。

委員 高校入学後もですが、中学生に進学した際の部活動の選択肢が全くなかったことが、苦痛でした。中学校へ入学後の上級生は、女子生徒しか在籍しておらず、自分自身の学年は男子生徒が7名、女子生徒2名でした。

それで部活動を決める際に、男子生徒が7名しか在籍していないので、野球もできない、サッカーもできない。できてもバスケットボールか、テニスボールか、卓球かでした。

ですが、担任の先生からは、テニスボールか、卓球かのどちらかを選んで欲しいと言われました。私は、外で活動をしたかったので、テニスボールしか選べませんでした。中には、小学生からバレーボールをしていた友人もいたので、その友人た

ちは、部活動ではバレーボールができないので、校外のクラブチームに所属して活動していました。

やはり、部活動の選択肢は全くありませんでしたし、部活動の種類を選べないというのは、とても苦痛に感じました。

小学生の時に、もうすぐ中学生になったら、こんなことがしたい、あんなことがしたいと思っていたのが、いざ、中学生になるとできなかつたので。

会長 それが少人数のデメリットかもしれませんね。

委員 部活動に関しては、これからかなり変わっていくことになると思います。現在、播磨高原東中学校の部活動は2つしかありませんが、全国的に学校での部活動を廃止して地域クラブ等へ移行していくというような話を聞いたことがあります。何かご存知ないでしょうか。

教育長 部活動の地域移行については、一昨年にスポーツ庁と文化庁から、今後、全国的に部活動の地域移行を目指すという方向性が示されました。ですが、部活動の地域移行をしていくには、現在、中学生で部活動をしている生徒達を受け入れる団体やクラブチームが必要になります。

なので、地域クラブの募集を始めましたが、生徒達をすぐに受け入れることが可能な団体ができる見込みがまだありません。

ですが、それぞれがやりたい種目の地域クラブチームが立ち上がれば、そちらを選ぶ生徒も出てくるのではないかと考えていますが、そのようなことが無ければ、学校での部活動を選ぶことになると思います。

委員 では、当面はこのまま今の状態が続くということですね。

教育長 そうですね。

委員 スポーツクラブ21も地域クラブではないのでしょうか。

このスポーツクラブ21という枠組みを利用して、地域クラブの中でも自分の好きなスポーツクラブに参加することで部活動の代わりとするようなことはできないのでしょうか。

スポーツクラブ21は、子どもからお年寄りまで老若男女活動されているので、部活動の受け皿は地域に既にあると思うので、クラブチームが地域にできなければならないということはないように思いますが、そのような考え方はないのでしょうか。

教育長 スポーツクラブ21のような地域の団体を利用するという方法もあります。また、クラブチームではなく、地域団体なので今言われたように、スポーツクラブ21が生徒を受け入れる団体になる可能性もあります。

ですが、スポーツクラブ21として、組織として生徒の受け入れをしてくれるかどうか重要になります。

- 会長 現在も、スポーツクラブ21の活動に参加している児童生徒はいるのでしょうか。
- 委員 参加している児童生徒もいます。
- 会長 そういうことであれば、児童生徒を受け入れる枠組みはありますね。
- 教育長 今まで部活動として活動していたことを、スポーツクラブ21として活動することも、部活動地域移行の一つの形態だと思います。
- 会長 他に何かございませんか。
- 委員 先ほど委員のお話にあった、前回行ったPTAと保護者会とのアンケート結果についてですが、傾向としては、今回事務局が実施したアンケート結果と同じです。
委員も言われていましたが、保護者の方の意見としては、【そのまま存続】が60.5パーセント、【高原小中一貫校】が、24.2パーセントでした。合わせて85パーセントなので、同じ結果だと思います。組合立学校を存続させて欲しいと考える保護者の方は85パーセントいらっしゃいます。
地域住民の方は、【そのまま存続】が50パーセント、【高原小中一貫校】が35パーセントなので、保護者の方、地域の方の回答結果を前回のアンケートと今回のアンケートを比べると、【高原小中一貫校でも良い】という回答が増えている傾向です。
- 委員 回答数は、今回、事務局が実施したアンケートの方が30件ほど多かったですね。
- 委員 前回PTAと保護者会が実施したアンケートの回答数は、53件だったので、今回実施されたアンケートの方が回答数は多いですね。
ですが、回答の比率は変わっていないので保護者の方も地域の方も考えることは同じかなと思います。
- 委員 小中一貫校というのは、令和10年度に開校される新宮地域小中一貫校は、同じ敷地の中に小学校と中学校があって、それぞれの学校で、校長先生がいらっしゃるという形だったかと思います。
去年、自治会長の研修で加東市の小中一貫校へ見学に行きました。加東市の小中一貫校は、1名の校長先生が、小学校も中学校も兼任されている義務教育学校といわれる施設形態で運営がされていました。
ですが、令和10年度に開校される新宮地域小中一貫校は、小学校は小学校、中学校は中学校と分かれていると思います。
それに、小学校1年生と中学校3年生を比べると全く違うので、加東市の場合は、おひとりの校長先生がどちらも兼務されていましたが、小学校は小学校のグラウンドがあり、体育館があり、中学校は中学校で体育館があり、グラウンドがありというよ

うな形で、一体性があると思います。

組合立学校の場合は、敷地も隣り合って建っていて、それぞれに校長先生がいらっしゃって、小学校と中学校が連携して教育を行っていただけるのであれば、高原小中一貫校の設置と本質的に変わらないかと思います。

委員 今言われたように、小中一貫（連携）教育として、9年間を見通した教育が行われているので、高原小中一貫校として考えても良い気もします。

このアンケート結果に記載されている【小中一貫校でも良い】という回答は、どちらか一方にまとめて運営することを指しているのかと思いますが、小中一貫（連携）教育という観点では、かなり進んでいて高原小中一貫校と見ても良いのではないのでしょうか。

先ほど委員のお話を聞いて気になっているのが、児童生徒たちの内面までというのは難しいかも知れませんが、小学校の児童たちがどのように過ごしているか、小中一貫（連携）教育がされているなかでの児童の過ごし方や様子を教えてください。

委員 小学校での生活については、少人数の生活の中でそれぞれきめ細やかな関わりができています。小中一貫（連携）教育については、中学校での学びや生活について6年間の小中一貫（連携）教育を通して、中学生との交流や中学校での学びや生活を見学や体験したりする機会があるので、想像しやすい状況ではないかと思っています。

委員 私は、現在も小中一貫（連携）教育が行われているので、現状のまま維持していただきたいと思います。

小中一貫校のメリットとしてよく挙げられているのが、中1ギャップがなくなるということですが、組合立学校の場合は、1小1中なので今の状態でも、中1ギャップが無いと感じます。

それよりも、小学校と中学校を別々に設置しておくことで、現在でも両校の交流もあるので、将来の生活を想像しながら過ごすことができると思います。

1つ懸念点としては、小学6年生は、最高学年として、かなりの責任を持たせて生活をしていると思います。その中で子どもたちも、中学校生活を見据えながら責任を持って過ごしていると思います。

そして中学校では、1人の大人として生徒を見て教育がされています。現在は、小学校、中学校、それぞれ別のところで教育することで、そのような責任感が育つのではないのでしょうか。それを小中一貫校としてまとめてしまうと、小学校6年生としての成長が出来なくなるのではないかと懸念しています。

これから先の社会情勢で、人数が減ってきて立ち行かなくなる可能性もありますが、当面は現状のまま、それぞれ存続させて、また、数年後に検討し直すという方向で良いのではないのでしょうか。

委員 先ほど委員が、ご自身の体験をお話しされましたが、私の子どもも組合立学校に通っていましたが、少人数の中で、仲の良い友達が転校してしまっていて、孤立してしまい、不安定になった時期がありました。

そこで、中学校へ進学する際に、同級生が大勢いるたつの市立新宮中学校へ通学したいと言い出したりもしました。反対に、たつの市立新宮中学校で学校へ行きづらいつ感じている生徒が播磨高原東中学校へ通学したいという生徒もいました。

子ども達の成長が、一番大事な時なので、やはりしばらくは、現状維持で良いのではないのでしょうか。そこで例えば、4年後にもう1度検討するとなっても、現在通学している子どもたちが可哀そうな気がします。

兵庫県立大学附属中学校が設立されて、そちらの生徒が増えていっていますが、組合立学校の児童生徒たちは、たつの市新宮中学校へも上郡町立学校へも行けないとなつて人数が減つてきて学校が統廃合されて無くなると、組合立学校に通う児童生徒たちが可哀そうです。この組合立学校で児童生徒たちのためにどういふ教育ができるのかといふのを考えるのが良いと思います。

会長 他にご意見等はありませんか。

無いようですので、(2) 今後の学校の在り方についてを議題といたします。先ほどのアンケート結果の報告を受け、ご意見をお願いいたします。

委員 事務局の方々から、方策や案などは提示していただけないのでしょうか。アンケート結果だけを見て、今後の在り方を決めるのは少し難しい気がします。

事務局 この検討委員会で、今後の在り方を決定していくという事ではありません。会議の中で委員の皆様から出していただいた意見をまとめて、教育委員会へ答申するという流れになり、教育委員会で今後の在り方を決定していくので、この会議は、その前段階に位置します。

委員 このアンケート調査を実施される際に、このアンケート結果をもとにして組合立学校の今後の在り方を決定するという文言が調査票にはなかった気がします。

教育長 前回、そのようなご指摘があったので、アンケートの前段として調査用紙にそのような文言を入れています。

委員 今後の在り方を決めてくださいと言われても、アンケート結果が全て、ではないのでしょうか。

事務局 このアンケート結果を見ていただくと、大勢の方々組合立学校の存続を希望されています。この意見の中で、大人数の学校で学びたいと考えている方もおられるので、その少数の意見に対してもどうするかといふことを、議論していただいて、今後の在り方を検討していただければと思います。

委員 色々な選択肢を選べるようにしたら良いのではないのでしょうか。

事務局 自由に行き来できるような学校にしていくのも、1つの方策かとは思いますが。柔軟に、それぞれの保護者の方の思いが通じるような中で、組合立学校の存続ができ

ればよいのかと思います。

決して財政的な立場が苦しいので、この在り方検討会をしているのではなく、色々な立場の方からの意見をいただいくという事を趣旨としています。

委員 色々な立場の方の意見を聞きたいというのは、私達委員も同じ意見です。そうしないと、どちらか一方の意見に偏ってしまう気がします。

なので、色々な立場の方の意見を聞いて、最終的な考えを出さないといけないと思うので、全員参加型の会があっても良い気もします。

事務局 まず、色々な立場の方の意見を聞くために、アンケート調査を実施しました。

今、言われたように、その場で何かをお話したいと言われる方もおられるかもしれませんが、そのような意見がある場合は、この会とはまた別に機会を設けられればと思います。

委員 色々な立場の方の意見を吸い上げて、私達委員がこの会で発言する方が良いと思います。

事務局 本日は、アンケート調査の結果をもとに色々な意見をまとめた、答申案を考えていただければと思います。

委員 西栗栖地域の質問3への回答割合はありますか。

【そのまま存続】や【高原小中一貫校の設置】と回答した割合が8割と言われていますが、その半数が光都地区の住民の方だと思うので、西栗栖地区の回答割合を知りたいです。

事務局 お子さんがおられる家庭は、【そのまま存続】が2件、【高原小中一貫の設置】が3件、【たつの市、上郡町のそれぞれの住所地へ通学】が1件、【新宮地域小中一貫校へ通学】1件の回答がありました。また、お子さんがおられない家庭も同じような傾向です。

委員 先ほど、事務局が言われたように、組合立学校をそのまま存続させて柔軟に対応していくという方法が一番理想だと思います。そうすることで、お子さんを大人数の学校で学ばせたいという方は、そちらを選択して、組合立学校の良さを知ってここで学びたいと思う児童生徒の方がいたら、それを受け入れる。そのような形で存続させていけるのが良いと思います。

また、高原小中一貫校を進めるという意見の中には、積極的な意見や、今の状況から見てそうせざるを得ない、財政的に厳しいから一つにまとめてでも存続させるといった消極的な意見もあると思います。

ですが、みなさん、組合立学校の存続を希望されていることは確かなので、その中で柔軟に対応していくというのが、様々な意見を活かした学校運営につながるのではないのでしょうか。

- 会長 財政的なことを私達は、特に考えなくても良い気もします。
- 委員 そうですね。
財政的なことを考えて小中一貫校にまとめてしまうと、教室が足りなくなったり、小学校と中学校では建物の造りも全く違うので、大きな投資をして建物を大規模な改修しないといけないということが起きてしまうかもしれません。
なので、現状では、小中一貫（連携）教育として9年間を見据えた教育をされているし、それが上手く機能しているので、新たに投資をする必要までない気がしていますし、今の形で更に、柔軟に対応した教育をしていって、外部の人たちにも、その様な教育がされていることをもっと知ってもらえるのが一番良いと思います。
- 委員 柔軟な対応と言うのは、具体的にはどの様な対応になるのでしょうか。
- 委員 例えば、令和10年度に開校される新宮地域小中一貫校のような大人数の学校で学びたいと希望する児童生徒がいれば、そちらで学ぶことができる、そして、校区外から組合立学校で学びたいと希望する児童生徒がいれば、それを受け入れる。
現在は、校区外から通学するには一定の手続きが必要ですが、その手続きの障壁を少なくして受け入れるという柔軟さのことです。
- 委員 それは、組合立学校の今後の在り方や、存続させるという事ではないと思います。
- 委員 現状のまま組合立学校は残して、その中でも色々な思いをお持ちの方もおられると思うので、その方達のことも考えていければ良いのではないかという事です。
- 委員 新宮地域小中一貫校は、同じ敷地内に小学校と中学校があってそれぞれの月齢に応じた設備が作られると思いますが、組合立学校の場合は、そのまま存続して小中一貫校にしても、それぞれのグラウンドや校舎があることを考えると、このまま存続と高原小中一貫校の設置は、そこまでの違いが無いように思います。
学校運営の方針などは違っても、小学校は小学校の、中学校は中学校の設備が必要になるので。
その様な意味では、質問1も質問2もさほど変わらないと思いますが、また違う意味合いで、この設問を考えられたのでしょうか。
- 事務局 小学生も中学生も1つの校舎に集まると、異学年での交流ができるのではないかとということで、設問を考えました。
ですが、現在も、小学校と中学校が連携して教育を行っているので、1つの校舎に集まらなくても良いという意見もありましたが、この設問では1つの校舎に、児童生徒を集めて教育を行うということを意図しています。
- 委員 新宮地域小中一貫校は、小学校と中学校のそれぞれの校舎が建てられる予定ですよ。

- 委員 校舎は1つですが、小学校は小学校、中学校は中学校という、それぞれの区分は区切ってあります。
- 委員 グラウンドなどは、どうなるのでしょうか。
- 委員 グラウンドも1つですが、現在の計画では、小学校用グラウンド、中学校用グラウンドと分ける予定です。
- 委員 加東市で見学した学校は、小学校は小学校の校舎とグラウンドがあり、中学校は中学校の校舎とグラウンドがあり、それぞれ分かれていて、中学生と小学生が集まって集会などはないと聞きました。
- 委員 完全に分かれているということですね。
- 事務局 加東市のように、小学校と中学校のそれぞれが併設されていたり、新宮地域小中一貫校のように校舎が一体型など、様々な形態があり、小中一貫校は、必ずしも1つの建物にないといけないという事はありません。
ですが、この設問は、1つの校舎に児童生徒を集めて教育を行うという意味合いです。
- 委員 白紙の状態、今後の在り方を考えていくというよりは、色々なパターンを示していただいて、委員全員で考えていくという方が良いと思います。
- 教育長 組合立学校を存続させるかどうかということ、今回のアンケート調査や、委員の皆様のご意見を踏まえて、答申を作っていただきます。
まず、それが基本であり、今、話題になっている小中一貫校にするかどうかということになると、この検討委員会で決めることではありません。
この検討委員会からもご意見をいただいて、教育委員会として小中一貫校にする、しないといった判断をしていきますので、今後の在り方となっておりますが、組合立学校を存続するか、存続しないかということ、答申としてまとめていただきたいと思っています。
- 事務局 アンケート調査の結果では、8割の方が存続を希望されているので、存続させますが、何年後かに再度、話し合いをするということや、大人数の学校で学びたいという方がいれば柔軟に対応するという案を答申として考えていくことが必要ではないかと思っています。
- 委員 先ほど教育長がいわれたのは、存続するか、しないかどちらかを決めるという事で、区域外就学の障壁をなくす、小中一貫校を設置するという事は、また別の話ではないでしょうか。
- 教育長 存続するという答申のなかで、例えば、高原小中一貫校の設置を検討する、新しい教育システムを導入して欲しいなどのご意見をいただくこととなります。

委員 新宮地区の小学校では、小中一貫校になる前段階で、それぞれの学校の在り方検討会があり、4、5年後に再度在り方を検討するという場があったと聞きました。
また、たつの市が、それぞれのこども園の保護者から意見を聞く場を設けられていました。そして、PTA会長など代表の方が、その場の意見をまとめて、学校の在り方検討会で話すということがあったそうです。

その様な形で運営されると、様々な方の意見が反映されやすいのかなと思います。

委員 新宮地域での学校の在り方検討会が開催された際には、当校区にはその様な話し合いの場がなかったなので、当然存続するものだと思っていました。

事務局 その方向性をベースにして議論していくようになるのかなと思います。
アンケートの結果と違う方向性で議論していくのは、アンケート調査を実施した意義がなくなるのではないかと思います。

委員 例えば、賛成と反対があって、反対が3件あれば、これをもう一度考え直すということにはならず多数決で決まるのでしょうか。

事務局 PTAや保護者会の方々が、小学校は小学校で、中学校は中学校で意見を取りまとめるという事でしょうか。

委員 そういうことではなく、様々な立場の方の意見を広く聞く場があり、その場の意見を集約した方が、在り方検討会で委員として選出されて発言されるという事ではないでしょうか。

この場で、存続するかしないかを決めるという事は、とても責任が重大なことなので、その様な前段階で、話し合いがあれば良いと思いました。

事務局 前にも一度、小学校PTAの方々や保護者の方々との意見交換会のご案内をして、開催しました。その中で、今後、このような検討会を設置して在り方を考えていけるような場があれば良いという意見もあり、今回の在り方検討会の設置に至りました。

より多くの方の意見を聞くという場もあれば良かったのかなと思いますが、前段には、PTAの方々や保護者の方の意見を聞くという場を設けながら今回の検討会の設置やアンケート調査の実施と進めてきました。

そのため、委員の方々の責任が重大だというお声もありましたが、アンケート結果について委員の皆様の意見をお聞かせいただき、事務局で答申案を考えて、次にその答申案について議論していただこうと思っています。

委員 大人数で意見を出すというよりは、年少クラス、年中クラス、年長クラスとそれぞれ細かく分けて、それぞれの代表が発言して、意見を聞くという形でした。

委員 委員が言われたように、たつの市の在り方検討委員会や適正規模適正配置の協議

会は、まさにそのように行われていました。

この検討会の委員の方々は、立候補されて委員になられた方もいますが、各自治体の代表やPTA、保護者会の代表の方々が集まってきているのですよね。

事務局 自治会は、自治会長の方に来ていただいて、西栗栖地区、新宮町光都地区、上郡町光都地区のそれぞれの地区からは、未就学の保護者、小学校、中学校の保護者の方に出てきていただいています。

委員 各代表の方として委嘱されて、この在り方検討会に出て来ていただいているので、個人で責任を負うという事ではなく、それぞれの地区の意見を持って、代表としてこの検討会に出席していただいたら良いと思います。

委員 そうだとしても、もう少し事前説明があるべきではないでしょうか。
今言われたことだと、それぞれの意見をまとめてこの検討会に出席するということですよ。

委員 まとめてというよりは、今回の検討会で出た意見や話を、それぞれの地区に持ち帰って、その中で共有してもらえれば良いのではないかということです。

会長 地域の中で意見は、共有するようにはしています。それが役目だと思っているので。

委員 その役目をご存知だった方は、この中にいるのでしょうか。

委員 私は、中学生の子どもがいますが、自治会長としてこの会に出席しています。しかし、何も事前説明はなかったです。

ですが、個人的な意見としては、未就学のお子さんや小学生のおさんがいる保護者の方は当事者でもあるので、その方々の意見を最優先していただきたいと思います。

委員 確かに事前説明がなく、在り方検討会に出席して、発言するというのは無責任な気がします。

委員 今日、結論を出すということではないですよ。また、次回もありますし、遅くとも来年度中には答申を出すという事なので、今日、ここで結論を出さないといけないという事は無いと思います。

PTAとしては、もうすぐ拡大委員会が開催されるので、その中でこの在り方検討会のアンケート結果や内容等を報告して、保護者の方の意見を集約できればと思っていますし、中学校でも保護者会が開催されるので、その中で報告できるかと思っています。

委員 家庭によって夫婦間でもそれぞれ意見が違うので、それを集約するというのは違

う気もします。

委員　　そういう意味では、集約は難しいかも知れませんが、総会などに出席できない方の意見なども後日お聞きしたりして、どのような意見が出たかなどの共有はできるのではないかと思います。

委員　　学校の在り方というのは、存続するか、存続しないかということも、もちろん大切な事だと思いますが、一番委員の皆さんに考えていただかないといけないのは、子どもたちにとって、一番良い教育環境は何なのかということが大切であって、その中に学校が必要なのであれば、学校は必要であるという答申を教育委員会にすることが大切なのではないかと思います。

先ほど、委員も言われていましたが、アンケート結果について話し合うだけではなく、中学校は中学校のいいところを、小学校は小学校のいいところを出し合って、組合立学校を残していくためにはどうすればよいかという議論ができるのが、この在り方検討委員会ではないでしょうか。

たつの市で開催された検討会でも、何度も何度も議論をして、最終的に小中一貫校に統合するという答申を教育委員会にして、新宮地域小中一貫校の開校の決定と話が進んでいったので、これからの子どもたちの教育環境や、自治会の方々は、地域の活性化を進めていくためには、学校はどうあるべきかなどを、この場で議論していただければ良いのかなと思います。

なので、決して委員の方々に責任を負っていただくとかではなく、子どもたちのためにはどのような学校にしていかないといけないとか、地域にしていけないといけないという事を話し合う場だと、私は思います。

委員　　それを考えていくためには、何も無い状態で考えていくことはできないので、方策案などの素材が必要ではないでしょうか。

委員　　ここで検討する在り方とは何かという、説明があれば良いと思います。

教育長　　播磨高原東小学校と播磨高原東中学校を存続させていくかどうかということで、高原小中一貫校の設置と回答した方を含めると8割以上の方が、組合立学校の存続を希望されているので、存続するという答申を教育委員会にすることになると思っています。ですが、その答申をするためには、この検討会で出た意見をまとめていただく必要があります。

委員　　存続するという答申の中に、どのように存続させるかという情報が必要なのかを教えてくださいたいです。

教育長　　存続するという答申になったとして、存続はするけれど、小規模特認校制度の導入などを検討して欲しいという、教育委員会に対する要望事項として意見をまとめていただけたらと思います。

また、高原小中一貫校を設置するとしても、その設置を教育委員会で決めていか

ないといけないので、それを検討するという要望を出していただくことは、可能です。そして、答申の中に、今後の協議の在り方についても入れていただけたらと思います。

委員 その3点の事項を決めていくという事ですね。

委員 これだけ長い時間と期間をかけて、この検討会で話し合った答申結果が、存続するという結果だけではいけない気がします。

委員 答申と言われてもイメージが湧かないので、たつの市でも、かなりの時間と期間をかけて出された答申だと思いますが、例などは無いのでしょうか。

事務局 たつの市では、西栗栖地区、東栗栖地区、越部地区などそれぞれの検討会で出た結論は、たつの市のホームページで公開されていますので、ご確認ください。

例えば、西栗栖地域の答申としては、「播磨高原東小学校への統合については否とする。否とするが、西栗栖小学校の今後の在り方については検討すべきと考える」、東栗栖地域や越部地域などそのほかの地域では、「新宮地域小中一貫校の開校と同時に統合する」という答申が出ています。

西栗栖小学校区としては、第一回が適正規模適正配置、第二回以降があり方検討会として、全七回開催され、新宮地域小中一貫校へ統合するという答申をされています。

委員 その新宮地域での検討会では、今回実施されたようなアンケート調査などは実施されていないのでしょうか。

事務局 新宮地域でも、住民の方に対してアンケート調査を実施されています。

委員 この在り方検討会が、組合立学校を存続するか、存続しないかということを決める会で、どのように存続していくか、存続させていくかを話し合うのは、また別の検討会になるような気がします。

事務局 まず、組合立学校を存続させるか、存続しないかを検討していただいて、存続するという意見の中で、付帯事項として色々な意見があると思います。

委員 その色々な意見と言うのは、どのような意見でしょうか。

事務局 存続するのであれば、存続するとして、小規模特認校制度の導入など、そういったことも検討して欲しいという意見をまとめていただけたらと思います。

委員 この会が発足するにあたって、どうなるのと凄く不安でしたが、アンケート調査も実施していただいて、住民の方が残したいと思っている方が多いということが分かったので、残す方向で動いていきますが、委員が言われていたように、色々な意

見があるので、そういう意見をできるだけ可能にしていけるように、動いていくというように思って、次回から参加してもらったら良いという事ですね。

事務局　今回はアンケートの結果に基づいて、そのまま存続という共通認識ができたと思います。また、これまでも、PTAや保護者会方が実施されたアンケートもありますが、改めて事務局が実施したアンケートの結果をもって、共通認識ができたのではないかと思います。

そして、今回は、その結果をもとに、どのように要望を出していただくかという事を話し合っただけだったと思います。

委員　組合立学校は、存続させるという頭合わせと捉えて良いという事ですか。

事務局　組合立学校を存続させるという意見でまとまったと認識しています。

今後の予定については、今回は、5月～6月頃に開催させていただこうと思っています。今回は、アンケート結果を受けて委員の皆様のご意見をお伺いするために開催させていただきました。今回出た意見を踏まえて、事務局で答申案を作成し、次回ご報告できればと思います。

教育長　このアンケート結果で、そのまま存続というご意見が8割以上ありますので、まずは、そこを共通認識とさせていただいて、今回は、存続するさせるのに柔軟な対応などの議論が進められればと思います。

事務局　アンケート結果については、後日ホームページへ公開させていただきます。また、次回までに色々な方のご意見を聞くことができるのであれば、聞いていただいて、次回、教えていただけたらと思います。

会長　他にご意見等ありますでしょうか。無いようでしたら、今回、予定されています協議報告事項は終了いたしました。

副会長　本日は、長時間に渡り、議論をしていただきありがとうございました。また、次回までにアンケート結果などをもとに、周囲の方々の意見を聞くことができるのであれば、聞いていただいて、次回教えていただき、良い議論ができればと思います。本日は、お疲れ様でした。ありがとうございました。

(20時35分 閉会)